

平成20年度（2008年）

海外行政視察報告書

（中国・ラオス・ベトナム・韓国）

平成20年6月30日（月）～7月9日（水）



フランスの統治下の影響が残るラオスビエンチャン

田 原 市 議 会
海 外 行 政 視 察 団

目 次

巻頭あいさつ	2
視察レポート	
中国 昆山市	3
ラオス サイタニー郡	5
ベトナム ハノイ	8
ベトナムトヨタハノイ工場	9
デンソーハノイ工場	10
韓国 ソウル 銅雀区	10
全工程を通じての所感	13
田原市議会海外行政視察日程表	18
田原市議会海外行政視察団名簿	19
編集後記	20

巻頭あいさつ

田原市議会海外行政視察団

団長 安田幸雄

田原市は、現在、海外の交流先として、アメリカのジョージタウン市及び韓国のソウル市銅雀区と姉妹都市提携、中国の昆山市とは友好都市提携、また、2005年の「愛・地球博」の一市町村一国フレンドシップ事業の相手国であるラオスのサイタニー郡とも交流提携を行っています。そして、これらの提携先からは首長、議員等を含む多くの方が田原市を訪れ、交流の輪を広げ、相互理解を深めてきています。

今回、田原市議会議員の海外視察を行うにあたり、今まで田原市議会として訪問を実施していない韓国ソウル市銅雀区や中国昆山市及びラオスサイタニー郡を公式訪問することと併せて、多くの日本企業が進出し、日本の経済にも深くかかわりのあるベトナムのハノイ市周辺の工場（トヨタ自動車、デンソーの現地法人）の視察を実施することとしました。この視察日程等については、参加者みずからが視察先やスケジュールなどを企画し、その大枠を決定したものです。

平成20年度の参加者は団長以下6名の議員で視察団を結成し、議会の代表としてこの海外視察に臨みました。しっかりとした交流をするには相手国を良く知り、また田原をよく知っていただくことが大変重要であり、特に従前の“箱ものへの視察”だけでなく、“人的交流”を重視した交流が求められるところです。

各市の訪問時には行政関係者や議会議員との交流を通して、私たち視察団は、訪問国をしっかりと見て、自分たちの目で彼らの歴史、文化、生活について学ぶとともに、相手方に自分たちの考えをできる限り伝えてまいりました。この経験を今後の交流にぜひ活かしていきたいと思っています。

今回、海外視察で得たものを議会として活かしていくと同時に田原市民の皆さんにお伝えし、交流先の国や都市の現況をお知らせすることで、より身近に感じていただきたいと、参加者一同が願っています。

今回の視察の一端を報告書にまとめましたので、市民の皆様にご覧いただければ幸いです。

6月30日 中国 昆山市

午後4時上海空港に到着。大変大きな空港で、まだまだ拡張の余裕が十分あった。

上海空港から昆山市までは8車線から6車線の高速道路が通り、道路の両側には緑地帯が整備されよく管理されていた。この間料金所はあったが、休憩所は1ヵ所もなかった。

昆山市に入ると道路や工場等の工事現場が目についた。ちょうど会社の終業時間と重なり、歩く人、



にぎやかな昆山市内

自転車、オートバイ等で人々があふれていた。定期バスには乗客で満員の状況であった。

ホテルに着くまで道路の両側は、歩く人、自転車、オートバイ、車であふれていた。20代・30代の若者であり、エネルギッシュな若い街と感じた。

7月1日 中国 昆山市

江蘇省昆山市は、上海と蘇州の間、悠久の歴史と人類が伝える無形文化遺産の多いところであった。位置は長江デルタ地帯に位置し、水の豊かな地域であり、面積は928 Km²。亜熱帯季節風気候に属し、平均気温は18℃で、日本と同様な四季がある。平均降水量は1,220 mm。人口は昭和50年までは5万人ぐらいであったが、現在では60万人〔住民登録のある人〕常住人口は約200万人とも言われている。

街づくりに水路や樹木などの自然を活かした整備が進められていた。こうした取り組みの結果、いたるところに河川・水路・湖が残っている。湖の埋め立てはできないよう法律で規制されていた。

産業は、再生可能なエネルギーを利用した電子産業、ガリウム砒素半導体、金型、センサー、ソフトフェア、精密電子機器等々の産業を基本とし、世界の55カ国から約4,000社が進出している。

交通は道路、鉄道、水路そして3つの港湾が整備されており、陸路は5本の

高速道路が完備し、鉄道も昆山新幹線が開通しており、上海・昆山間を18分で結んでいた。

貨物は、昆山輸出加工区に直接出入りし、税関事務の簡素化と手続きなどの優遇措置がとられていた。

空路は、上海虹橋国際空港まで自動車で45分、上海浦東空港まで自動車で80分とのことだった。

教育施設は、大学7校、高校6校、職業専門学校4校、中学校25校、小学校45校、幼稚園49園であった。小学校6年・中学校3年・高校3年・大学4年制は、日本と同じであった。進出企業の関係から台湾人の学校が多いとのことだった。



昆山市人民代表大会委員会副主任と記念品交換

とだった。

7月1日の朝9時にホテルで昆山市人民代表大会委員会副主任陳永明氏と公式面談、通訳の声が聞き取りにくいなど、もどかしい思いはあったが、大変歓迎されていることを声や顔の表情から感じられた。

昆山市の図書館では、夏休み中の

児童やその母親が多数来ていた。開館時間は午前9時から午後9時まで、年中無休で貸し出し等はカード化されており、1階部分に障害者優先席が設けられていたことや館内での飲食も可能で、受付、ロビーの状況から解放的に感じた。

昆山市行政サービスセンターは、国・江蘇省・昆山市が入っており、行政に対する問題や課題等はほとんどここで事務手続き、処理が行えるシステムとなっていた。

昆山市科博館は、施設は大きくよく整備されており、豪華さが感じられた。ところどころには警備員が配置されており、コンパニオンの説明で館内を回



昆山市科博館にて



水郷の代表ともいわれる周庄

ったが、一般開放というよりも進出企業向けの案内施設のように思われた。

中国江南水郷の代表ともいわれる古い街周庄は、明時代の街の姿がそのまま残る場所で、道路は石畳で狭く、家と家とが寄り添い奥の深い屋敷、間取りとなっていた。玄関先や家の中にも水路が入り込み、水路が交通の手

段に重要な役割を果たしていたことがうかがえ、まさに「水の都」と感じた。

ホテルでの歓迎会は昆山市から副主任、また田原に研修に来た看護師、本年来日が予定されている看護師を含め10名の出席があり、友好に励んだ。

7月3日 ラオス サイタニー郡

愛知万博フレンドシップ
国ラオスの面積は237,000Km²、人口は592万人、周囲を中国、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムの5カ国に囲まれ、日本の本州ほどの広さを持つ内陸国。そのうち約10%がビエンチャン特別市に集中。熱帯性モンスーン気候に属し、雨季



オートバイが多いラオス市内

〔5月～9月〕乾季〔10月～4月〕の2つのシーズンに分かれている。

1953年に独立するまでフランスの統治下であり、建物などに、今でもその影響が残っていた。

今回の視察は、ビエンチャン市の北側に隣接したサイタニー郡であった。サイタニー郡はビエンチャン特別市の郡。面積808Km²。産業は農業、1万4千エーカーの田んぼ、水牛は4千頭 牛2万頭、豚2万等、鶏アヒル2万4千



ナムーン川で養殖場を視察

羽、牛舎4カ所 豚舎9カ所、メコン川の支流ナムーン川で魚を22ヶ所で養殖。工場381箇所、(内294ヶ所は郡管理)。GDP953ドル、149ヶ所の学校〔内、国立は119カ所〕。小学生17,531人 中学生16,253人(中学校6年間)、

郡立の病院1ヶ所、保健所10ヶ所等だった。

た。

サイタニー郡では、サイタニー郡庁舎、農業事務所、教育事務所やバラ園の建設場所等を視察した

日本円で300万円、田原市の援助で建てられた教育事務所は、このあたりでは見かけられない外見の立派な建物であったが、内部の備品は老朽化が著しく、日本の小中学校で使われなくなった机や椅子が見られた。教育環境はあまりよくないと推測された。

義務教育年齢は山岳・少数民族もあるので年齢はあまり関係なく、小学校5年間、中学6年間(内3年間は高校にあたる)だった。

課題としては、学校や勉強道具がないので口頭や黒板で説明しているが、ものを見せることができないので理解しにくいとのことだった。



教育事務所にて 教育事務所長は裸足

この国では夏休みは6月から8月までの3ヶ月。暑いことも理由だが、田植えなどの手伝いをするのも大きな理由だといっていた。

また、ラオスでは仏教が生活に密着していて青少年の教育に大きく貢献していた。特に上座仏教は功德の教えを大切にし、信者が青少年を托鉢を通して支援する。青少年は僧として厳しい戒律の仲で修行する傍ら、塾に通い外国語をはじめとした勉強をする。こうした子どもたちが育っていく中でラオスの近代化が進められることを期待する。

このたび縁あって万博フレンドシップで結ばれた親交関係を大切にしなければならない。東アジアや東南アジアは日本に1番近い国々である。国際化が進む中で、資源の少ない日本が生き抜いていくには、近隣諸国との交流を深め、ギブアンドテイクの精神で協力していかなければならないと強く感じた。

2007年に2名、教育委員会のスタッフが田原市の教育を視察。同じく農業の専門家が4ヶ月間バラの栽培に関して研修。先月また2名を受け入れ、いまでも田原に滞在している。

バラ栽培予定地は、サイタニー郡の中心部よりかなり離れたところにあり、その地に着くまでは大変な道のりであった。道路は舗装されてなく、赤土であるため雨の後の道路は、車のタイヤが滑ってしまい、ハンドルを取られ、ひやんとする場面にたびたび出くわした。

途中ほとんど人家のないところに日本でいうコンビニみたいな店（何でも屋）があり、こんなところで何故かと思ったが、その理由について現地に着いて分かった。要は一般の住民にとっての交通は、自転車かオートバイであり、とても街中までは常にはいけないが、その役割を果たしているのがその店であるらしい。



ラオスサイタニー郡の何でも屋（コンビニ）？

現地に着いた後、農業事務所の方からこの7月の完成に向けて建設している事務所と宿舎を見た後、バラ栽培予定地の現状報告を受けた。

その広さは12ha、その中に木の植林、フルーツの苗、バラの栽培試験場を作る予定であり、バラの苗はタイ国から輸入し、7月末には苗が到着する。それらを培養して各農家に苗を配り、バラ農家の育成をする予定との事だった。

私達の様々な質問に対し、この事業の成功が、サイタニー郡の農家の所得向上に貢献できることや、しなければならない事などを具体的に答えていただいた。



日本では見られないラオスののどかな田園風景

土の問題、害虫処理、販売と課題は多いが、それらを解決し成功に導く援助が、真の友好関係につながることと思った。

視察後、教育や農漁業等にこれからも人的援助が必要と強く感じた。交流を続け、友好がますます深まるように祈りたい。

そのほかラオスで感じ

たことは、

- ・電化製品などはタイから輸入が多い。
- ・都会の人の携帯電話所有率は高い（ほとんど中国製品）
- ・ネットカフェが結構あること。
- ・ビール600mlは約1万キープ〔130円〕
- ・80%は農業。
- ・公務員は給料が少ないので困っている。他の仕事もしており、ある人は豚・鳥などを飼って売っている。〔大卒最初は50ドルくらい？〕
- ・ラオスのカリンは人気があるが、切りすぎたため去年首相が新しくなってから伐採については厳しくなった。

7月4日 ベトナム ハノイ

企業団地には130社ほどが立地し、ここで6万人が働いていた。道路は片側4車線あり、乗用車・トラック・オートバイが混在していた。特にオートバイが多く、2人乗り、3人乗り等であった。オートバイを購入後1週間以内に警察署に出向き登録をし、そこでナンバーを付与されるとのことだった。

ハノイ市は8月1日から周辺の3省を合併し、現在300万人の都市から800万人都市へ、面積も3倍ぐらいになるといわれている。

人口も1年で100万人ほど増加しており、クーラー等の電化製品の普及も進み、そのため電力不足が生じている。そのため、輪番制で停電する区域を決めていた。



人口対策として政府は子ども2人政策をとっているが、罰則がないため守られておらず子どもの数が増加している。

人口構成は戦争のため、30代が多く、子どもも多いとのこと。義務教育ではなく、お金のない人たちは学校へも行けない。

学校は2部制で午前7時から12時、午後1時から午後5時とのこと。

18歳から25歳までに2年間の徴兵制はあるが、理由があれば入隊しなくて済むとのこと。

ベトナムの平均年収は300ドルと発表されているが、実質は日本円で10万円以上とのこと。

水田地帯では2毛作で、人力か牛が主で、荒おこしの状態で2回目の田植えをしていた。

トヨタモーターベトナム ハノイ工場

1995年に進出し、17年目に入った。会社はトヨタモーターベトナムで、敷地面積は210,000㎡、工場面積28,000㎡。工場はほとんど手作りで生産しておりオートメーション化はしていない。田原工場と見比べるとここでは創業期の状態を残している。

日産15台から始まり現在では、年26,000台を生産している。社員は



トヨタモーターベトナムで説明を受ける視察団

約1000名で稼働形態は連続2直であった。社員の平均年齢は28歳。毎年50人から100人を採用しており、2週間ぐらいの研修を行い、現場に配属されている。事務系の社員の10%が辞め、他の外資系企業に移っていくとのことであった。

ベトナムでは電気が不足しており、週1回1時間程度の停電があるため、会社内に発電機を設けていた。

少量多品種生産で、5モデル11車種を生産している。最小の投資による全工程マニュアル生産（手づくり）で、高い生産技術が必要だが、ベトナム人は勤勉さと忍耐力を持っているとのことだった。賃金体系では事務職は月100ドル。

トヨタモーターベトナムでは、生産活動のほかに教育・文化・環境活動などの社会貢献活動にも取り組み、トヨタベトナム財団を設立し、その支援をしているとのことだった。

デンソーマニュファクチャリングベトナム ハノイ工場

デンソーハノイ工場は、2003年に創業し輸出型企業として売り上げ計画は130億円を目標としている。敷地面積は56,300㎡、従業員は約1,300名でそのうち女性が1,087名。勤務は3直。完全な男女平等方式で女性も深夜労働をしていた。生産現場は1人が1工程をこなし、人による流れ作業を行っていた。日本語の研修を行い、社員への指示は日本語で行っていた。

作業手順表(マニュアル)に従い指示すれば動くが、自ら動こうとしない彼女等と同じベトナム人によって「やる気」を出させるのが大事だといわれ

た。そのため顕彰制度を設けていた。



黄色の部分がベトナムタンロン工業団地内のデンソー工場

7月7日 ソウル 銅雀区

銅雀区は、1980年4月1日、ソウル特別市の17番目の区として誕生した。その名称は、トンジェギナル(トンジェギの渡船場)から由来し、悠久な漢江(ハンガン)と歴史を共にしていた。区の花は菊、区の木は松、区の鳥はシラサギ。面積は16K㎡[ソウル特別市全体の2.7%]、人口は41万人、議員の任期は4年、定数20人。



金銅雀区長と固い握手を交わす安田団長

歓迎の挨拶の後、財政経済局長、支援生活支援局長、都市管理局长、建設交通局长ら区の幹部と共に銅雀区の紹介DVDを鑑賞した。

銅雀区庁長、金 禹仲(キム・ウジュン)氏が挨拶で「2006年姉妹提携を結んで以来、交流を活発に行ってきた。7月1日は銅雀区長として就任して10周年だった。個人的に意味の深いこの次期に皆さんをお迎えすることが出来うれしく思っている。今回の視察団の訪問は交流を深める上で今後とても励ましになる。」と述べた後、韓日親善協会長他、関係者とより交流を深めた。

体育センターは、193億ウォンで建てられ、地下3階、地上4階で、2002年5月にオープンした。プール、ジム、体育館、多目的室、知能開発室、ピアノ室、室内ゴルフ等完備。職員22名 その他97名、合計119名で運営されている。定期会員1,920名、7施設で5,461名が利用しており、平日6時から22時まで、土曜は21時まで開館している。



子どもの教育には関心が非常に高い

週末は家族で過ごす習慣があり、家にいたり郊外に行くことが多く、来客が少ないため日曜日が休館とのことだった。

朝鮮戦争により文化的なものが大分失われたため、そういうものを保存することが大切だということで文化院が創設された。

説明してくれた館長が銅雀区の議長のとときに田原市との交流をはじめた。田原市からもいろいろな方に来ていただき、姉妹提携を検討したが、竹島問題などで延びてしまったといわれた。

保健所には3つの課、13チーム95名が働いている。事業費108億ウォンで98年度から比べると3倍に増加した。一日平均800人が訪れる。ソウル25区の所長は全て医者。地方に行くと半分くらい医者ではなくなる。また現在8,100くらいの飲食店を管理していた。



ボランティア銀行を視察する議員団

ボランティア銀行は1999年に創立し、2003年度に社団法人化。公務員ではなく市民が働いている。2005年に韓国で初めてのボランティアセンターを建設した。建物は地上3階、地下2階で、面積は1,400㎡。また、シンボルマークの意味は、小さな愛が集まって大きな愛になって人に伝わるということであった。

システムは、ボランティア基本教育を2時間受けると手帳と通帳がもらえ、

ボランティアをすると時間が通帳に書かれるシステム、日本流には「結いの心」中心とした制度と銀行の制度を合わせたものだった。会員36,000人(内大人30,000人、青少年6,000人)。ボランティアを必要としているところは11,000カ所くらい。基本教育を今まで17,000人が受けた。その後、ボランティア大学、専門教育を受けることができる。

ボランティアの内容はお弁当の配達、洗濯、ヘアカットなどいろいろであり、週末に家族や青少年がボランティアをできるようにいろいろなプログラムをそろえていた。他のセンターや関連機関、ボランティア同士の懇談会も行ってた。また、ボランティアに無料で健康検査を受けてもらったり、表彰したりしていた。



笑顔で親交を深める両議長

交流会では議長より、「ご訪問を心より歓迎します。昨年春の訪問の際歓迎や交流事業に積極的に協力してくれた皆さんに厚くお礼申し上げます。」との挨拶の後、議会議員、事務局職員らと交流を深めた。



全行程をを通じての所感

6月30日 朝8時20分役所北玄関に集合、遅刻する者もなく順調に集まり、誰言うともなく「パスポートは？」以後10日間の旅程のうち移動日には必ず確認される言葉となった。市長たちの見送りを受け出発。セントレアを13時50分、中国東方航空機で離陸、上海空港着は現地時間15時過ぎ、時差があるため得した気分。空港からは現地ガイドの案内のもと車で約1時間ホテルへ移動。車窓から眺める上海は大都市、聞けば外資の導入によりさらに市域は広がり開発も進んでいるとのこと、安い労働力を求めて中国に投資した企業も当初の思惑と違ってきたのではないかと、経済発展のペースがかなり速いのではないかと、あくる日昆山市を視察した際に改めてそんな思いにとらわれた。また現地ガイドの流暢な日本語に感心、中国事情を聞くが昆山市の担当の朱さんよりはるかに上手に話していた。



熱烈歓迎田原市議会

7月1日 朝9時、ホテルで昆山市人民代表大会委員会副主任陳永明氏と公式面談、間に通訳を挟むためもどかしい思いはあるが、歓迎されていることを感じる。

面談後市内の図書館、行政サービスセンター、科博館、体育センター、森林公園、そして中国江南水郷の代表ともいわれる古い町周庄を視察、どの施設を訪問しても「熱烈歓迎田原市議会」と横断幕、あるいは

電子表示がなされより感激。

猛暑日であり、移動もかなりハードに感じたが車窓からも充分、大都市であることを改めて確認、平成5年に赤羽根町と友好都市提携を結んだ後、昆山市はわずか15年ほどで経済発展したのであろうか、現在日本、台湾を始め数多くの外国企業が進出しているとのこと。

早朝から街を自転車、バイクで埋め、交通ルールは？と思うシーンがたびたび、幹線道路を走る大型トラック等にも見られた。そして街を出歩いていく層は圧倒的に若者ばかり。高齢者はどこに？

ホテルでの歓迎会は昆山市から副主任、また田原に研修に来た看護師、本年来日が予定されている看護師を含め10名の出席があり懇親に励んだが乾杯の繰り返しには降参寸前、52度の白酒はきつかったが、翌朝は爽快だった。



52度の白酒で乾杯・乾杯

7月2日 本日は移動日、上海空港からバンコクへ移動、そして飛行機を乗り換え、ラオス、ビエンチャンへ向かう。上海空港で乗り込んだ中国東方航空の機内が暑く、飛び立つまでの間と高度に達するまでの結構長い間暑いままでげんなり、もちろん日本語は通じない。次回に搭乗する機会があっても遠慮する。

バンコクで乗り換えた後およそ1時間20分ほどでビエンチャンへ到着。空港での入国審査を待っている際、現地の係員と思われる制服姿の男が禁煙区内で喫煙するのを目撃、公務員の特権か？堂々とした喫煙姿か？現地ガイドと合流、雨季、乾季を取り違えるほど心もとない日本語、しかし過去の年号だけは明快に話した。信じていいものだろうか？



サイタニー郡の農村風景

事務所、川えびの養殖池、バラの試験場予定地等訪問したが、スコールのあと道路事情が悪くなったから予定した農園にはいけない事態にも動じない、バラの試験場は予定通りできるのだろうか、心配だ。

どこまでも続く水田風景を見る、日本で言う耕地整理前の状況、あぜ道だけであり、車・機械を見ることはなかった。でもラオス流に事を運ぶことは時間がゆっくり進みそうで全てに癒される。3食食べたラオスのもち米はうまかった。日本のもち米より上かとも思ううまさ。

ビエンチャン市街だけでなく郊外の通りにも早朝から食事のための屋台が至る所に出現していた。家庭での炊飯の風習はないみたい、また、日本流に言うとオープンな喫茶店みたいな店に昼間から大勢がたむろしていた。

ビエンチャン郊外でも同様、一体いつ働くのだろうか。衛生観念の違いにも驚いた。家から通りや川に向けてゴミを捨てるのみ。妙齢の女性がゴミを掃きだしていた。

7月3日 サイタニー郡庁へ向かう、郡長以下何人も名刺交換するがアルファベットでありながら名前が読めない、もちろんラオ語はなおのこと読めなかった。

会談の後、田原市がサポートした教育事務所へ向かう。迎えに出ていただいた上級幹部の方が裸足で迎えてくれる。この後も文化の違い、経済事情の違いを感じる事がしばしば。農林事



黄金の仏塔 タートルアン

7月4日 ベトナム、ハノイ市への移動日であり、飛行機の時間までビエンチャン市内の文化施設を見学した。あまりなじみのない国であったが、ラオスの人々には仏教徒が多いせいか慎ましさとゆっくりとした時間の流れを感じた。

市街はフランス植民地時代の影響を色濃く残していた。凱旋門（バトゥーサイ）も1960年に建設が始められいまだ未完成とのこと、しかし市内に7階以上の建物がないため登れば市内が一望できた。

現在のラオスはインドシナの戦火に巻き込まれた後1975年に王制を廃止し人民共和国を樹立した。今も過去の歴史が街の至る所で感じられた。



未完成の凱旋門

しかし、アジアの経済危機の影響を受け、海外からの経済援助に頼っている現状とのことだが国民はどう感じているのかな、現状をそのまま受け入れているように思う、決してあくせくしているようには思えなかった。

7月5日 夕べ、ベトナムへ到着、空港の外へ出た瞬間、暑い！蒸し暑い熱気が体を包む。車中現地

のガイドにベトナム事情を聞く、日本語が上手だ。ベトナムを訪れる日本人観光客が多いことを容易に予測できる。

早朝、原付バイクに腹を割いた豚を3頭乗せ、飲食店と思われる店に入っていくのを2度も見た。文化の違いだけではない、衛生観念も大いに違うか。

道路という道路をバイクが覆う、通勤のためか途切れることがない。またクラクションも鳴りっぱなし。交通ルールを守っていたのでは道路を渡れない。

この日はハノイ市郊外の工場団地に進出したトヨタ自動車、デンソーを視察。ベトナムには日本企業の進出がなんと多いのであろうか。暗くなって幹線道路を走れば日本企業の看板ばかりが目につく。中国に代わるような役割をベトナムが果たすのだろうか。夜はデンソー幹部の方たちと夕食懇親会、暗くなっても子供たちの物売りがまとわりつき絵葉書を買ってしまった。バイクでの通勤風景といい生活へのエネルギー、バイタリティを感じた、すさまじいエネルギーだ。農村の風景を車中より眺める、牛と耕運機が田んぼで働いている。ラオスよりまだ日本に近いかな、しかし工場視察の際30年の差があるとのこと、農業で



ベトナムの複合化した電線

もそうだろうな。

7月6日 ソウルへの移動日。この日は長時間飛行機に乗らなければならない。覚悟して臨む。ハノイから香港へ順調に飛行。香港で飛行機を乗換え、この乗換えの時間を利用して香港国際空港を探検、大きい！広い！に尽きる。迷子になりそう。そうこうするうちに、降り出したなと思った雨がみるみるうちに大雨になってしまった。飛行機に乗り込むも時間が来ても飛び立たず、一寝入りして目覚めても飛行機はそのまま、機内アナウンスがあったのだろうが残念ながらわからない。後から聞けば雨の影響で離陸できなかったとのこと。本来なら21時過ぎにはソウルへ着くはずが

午前0時寸前。この日はただただ疲れ、ぐっすりと眠る。

7月7日 午前に銅雀区庁長表敬訪問、会談の後区内の施設を見学。同行して通訳の仕事をしてくれた職員のジョンさん、またこの日のためにバイトで通訳をしてくれた大学生のハ君、そして豊橋に住んでいたユンさんと我々のために通訳をそろえていただき、歓迎されていることを肌で感じた。区民体育センター、ボランテティア銀行、文化院、保健所とどの施設でも熱くもてなしをしていただいた。感謝。昼は区の主催で歓迎夕食会を催していただいた。午後銅雀議会を表敬訪問、会談では昨年田原に訪問されたことを例に旧交を温める。夜の議会主催の歓迎夕食会での懇親を約束し訪問を終わった。

歓迎夕食会では議員との交流が熱く行われ、自分のことを覚えているかと声をかけられた。嬉しかった。あくる日の夜も懇親会を個人的にやろうと約束。

7月8日 午前中大統領府見学、午後ソウル市内の文化施設、死六臣公園・昌徳宮を見学。なかなか大統領府を見学できるチャンスはないと思うがラッキーであった。

アメリカ産輸入肉の問題で激しいデモが繰り返されているため警備が厳重、警察官でなく軍隊も。自動小銃が目の前にあるのはあまり気持ちのいいものではない。しかし大統領府見学の際、記念品をいただけたのにはびっくり、大きなマグカップだがありがたく使わせてもらおう。この日は大変暑い日で、1～2時間は歩かなければならない大統領府、



ソウル銅雀区長を表敬訪問



歓談する金議長

昌徳宮とも日陰を探しては歩く、大いに汗をかく。大統領府では訓練のため銃声が聞こえるかもしれないがあくまでも訓練との注意がある。日本との違いを改めて思い知った。

通訳をしてくれるユンさんの日本語はまるっきり三河弁、ありがたい通訳だった。大学生のハ君も子供の頃名古屋に7年程在住とのこと、我々の日本語が正確に伝わったことと確信した。改めて感謝・感謝。

7月9日 本日で全ての行程が終了、帰国の途へと、仁川空港への車中で海にかかる長大な建設中の橋を見た。韓国の経済力を垣間見た思い。ソウル市も近い将来人口、都市基盤整備等で東京を抜く日がくるのではとも思った。

いよいよ飛行機に乗り込む、アジアのエネルギーを感じた10日間の行程がこれで無事に終了するかと思うと周りに感謝、メンバーから同行の添乗員からすべてに感謝、今後の国際情勢にもよるであろうが、交流の大切さは伝えていきたい、アジアの友達を大事にしていきたい、そんな感想を持った公式訪問だった。



銅雀区議会の懇談会で通訳するハ君



韓国 大統領府にて
ボランティアのユンさん（左）と担当のジョンさん



昆山市 周庄の正門



ハノイの通勤風景（オートバイがほとんど）

【田原市議会議員海外行政視察 9泊10日】

日次	月日 (曜)	地 名	現地時間	交通機関	行 程
1	6月30日 (月)	中部(セントレア)発 上 海 着	13:50 15:15	MU530便	空路、直行便にて上海へ 上海到着後、専用車にてホテルへ ＜昆山泊＞
2	7月1日 (火)	上 海	終 日	専 用 車	昆山市(表敬訪問) ＜昆山泊＞
3	7月2日 (水)	上 海 発 バンコク着 バンコク発 ビエンチャン着	午前 14:35 17:50 20:00 21:10	専用車 MU541便 TG692便 (共同運転)	昆山より上海へ (空港で昼食予定) 一路、バンコクへ バンコク到着後、空港で夕食 ビエンチャン到着後、専用車にて ビエンチャン市内へ。 ＜ビエンチャン泊＞
4	7月3日 (木)	ビエンチャン	終 日	専 用 車	ラオスサイタニー郡(表敬訪問) (万博フレンドシップ事業による交流) ＜ビエンチャン泊＞
5	7月4日 (金)	ビエンチャン発 ハノイ着	18:00 19:00	VN840便	午後：バンコクよりにてハノイへ ハノイ到着後、ハノイ市内へ ホテルへ ＜ハノイ泊＞
6	7月5日 (土)	ハノイ	終 日	専 用 車	トヨタ、デンソー工場視察 ＜ハノイ泊＞
7	7月6日 (日)	ハノイ発 香港着 香港発 ソウル着	11:05 13:55 16:30 21:05	CX790便 CX416便	午後：ハノイから香港経由にてソウルへ ソウルご到着後、ホテルへ ＜ソウル泊＞
8	7月7日 (月)	ソウル	終 日	専 用 車	ソウル市銅雀区(表敬訪問) ＜ソウル泊＞
9	7月8日 (火)	ソウル	終 日	専 用 車	ソウル市銅雀区(表敬訪問) ＜ソウル泊＞
10	7月9日 (水)	ソウル発 中部(セントレア)着	12:55 14:45	KE757便	入国審査後、田原へ

愛知県田原市議会海外行政視察参加者名簿

愛知県田原市議会

役職名	氏 名	党派別	備 考
視察団団長	安田 幸雄	無所属	
視察団副団長	彦坂 雄三	無所属	
	荒木 貞夫	無所属	
	鈴木 義彦	無所属	
	山本 浩史	無所属	
	金田 信芳	無所属	
議会事務局長	加子 勉		



中華人民共和国



ラオス人民民主共和国



ベトナム社会主義共和国



大韓民国

編集後記

我々田原市議会海外行政視察団は、平成20年6月30日から7月9日までの10日間の日程で、友好都市の中国昆山市、フレンドシップのラオスビエンチャンサイタニー郡、ベトナムのハノイの日系企業のトヨタ・デンソーの工場と、姉妹都市の韓国ソウル市銅雀区を視察し、全日程を終了し無事帰国した。

今回の視察で感じたことを述べると、一つ目は、姉妹都市・友好都市・フレンドシップの各都市を議会視察団が訪問したためか、どこの都市でも大変親切で暖かい歓迎をしていただけたことに感謝したい。二つ目は、ラオスには経済的援助を含め、教育・農業を中心とした人的交流の必要性を強く感じた。三つ目は、今回の視察を通して今後は少しでもアジアに目を向け、グローバル化に対応していきたいと思った。そのほか気づいたことは、4カ国とも若者が街にあふれ、活発な経済活動を行っており、成熟した日本の将来をちょっと不安に感じた。今後は、この視察をもとに市行政に反映できるよう積極的に提案していきたい。

最後にこの視察が行程的にも季節的にも大変厳しかったことを追記する。

海外行政視察報告書

(中国・ラオス・ベトナム・韓国)

平成20年8月

編集／発行 田原市議会海外行政視察団